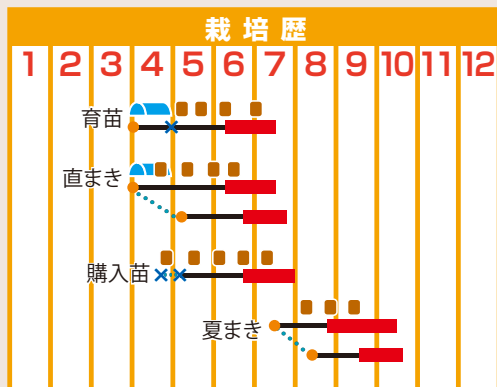


キュウリの育て方

大きな葉をつけて、ぐんぐんツルを伸ばし、毎旺盛に光合成を行って次々と雌花が咲き、一夜で果実が7cmも伸びる事もあるダイナミックなウリ科のキュウリ。生長が早いので、毎日観察しながら管理が遅れないように注意しながら育てましょう。



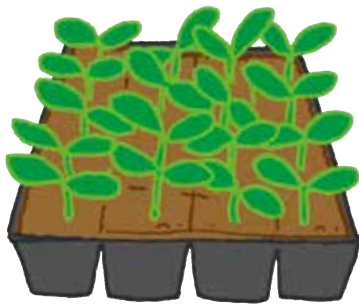
直まき



深型容器を使い有機物
 いっぱいの通気性の良
 い土でつくみましょう

キュウリは移植を嫌う植物なので、少量栽培なら直まきをオススメします。4月上旬、1カ所2粒、株間20cmにタネまきし、4月はじめはキュウリにはまだ温度が低いのですぐビニルトンネルで保温しましょう

育苗



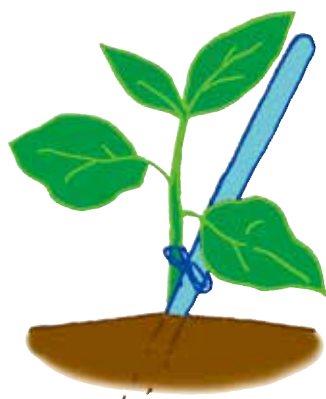
育苗は4月上旬セルトレイではじめ、4月下旬~5月上旬に本葉2枚で定植するまで保温して育苗します。

容器	株数	植え方	一回の肥料
標準プランター	3	1条	20g
発泡スチロール箱	4	2条	40g
深型菜園プランター	3~4	1~2条	50g
ジャンボプランター	5~8	1~2条	60g

【肥料】
 定植時、直まきは本葉2枚時に元肥、以後20日ごとに3~4回追肥

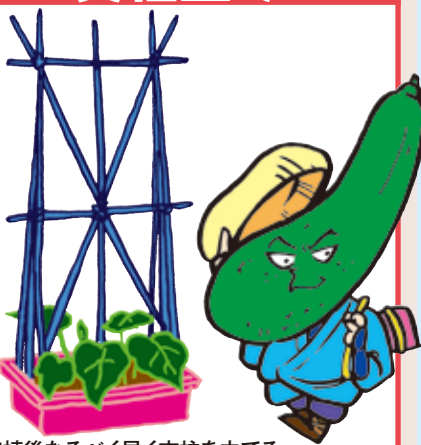
【品種】
 耐病性、耐暑性がある品種を選ぶ。
 「Vロード」「夏すずみ」「つばさ」「つや太郎」「北進」やイボの多い四葉系「シャキット」など。

定植

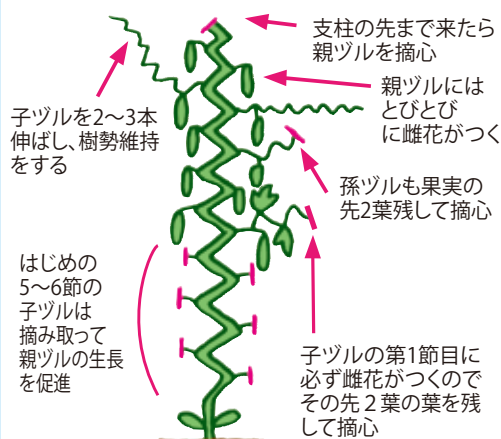


5月上旬、本葉2枚で定植。麻上市、サイドの土を寄せ、苗が倒れないよう仮支柱を立てておく。

支柱立て



定植後なるべく早く支柱を立てる。160cm程度の長い棒を使い、たて、横、斜めがっちり組みましょう。



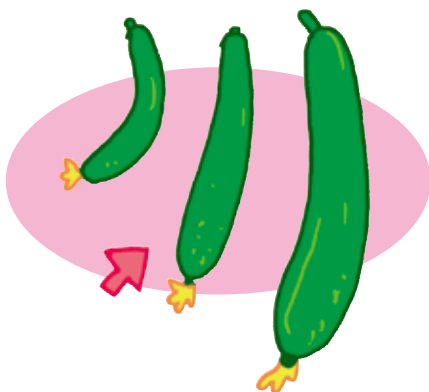
整枝 ツルが縦横に伸びて行き、受光が悪くなり、樹が大きくなるばかりで実がつきにくくなりますので適当な所で小ツルを摘む「整枝」が欠かせません。

肥料・水やり



キュウリは最大生育期には1日に2リットルの水を吸うと言われてます。毎日旺盛な生育をしますので、肥料と水は十分に与えて下さい。水は夏なら1日に2回たっぷりやりませう。追肥は定植後は20日おきに必ず条溝施肥します。根が乾燥に弱いので、ピートモスやワラ、堆肥などを株元に強い乾燥を防ぐと良いでしょう。

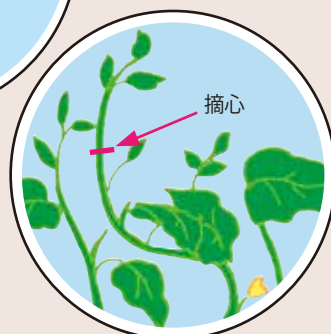
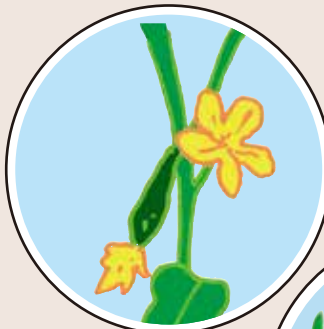
収穫



収穫期になれば毎日欠かさず観察して、15cmくらいの長さで若取りしましょう。若取りの方が実が次々となるので結果的に多収を望めます。朝取りが最も新鮮です。

キュウリの花

右が雄花、左が雌花。雌花にははじめから幼果がついています。受粉せずとも果実は肥大しますので、受粉の必要はありません。



親ツル摘心

親ツルが支柱の先までのびたらハサミで頂点を摘みます。(摘心) 行うことで、子ツルが良く伸び、果実が付きやすくなります。